

伊勢の会社社長を起訴

津地検

架空計上で4200万円脱税

実際には購入していない機械を購入したように装い、架空の減価償却費を計上するなどの方法で、法人税約四千二百万円を脱税したとして、津地検は五日、伊勢市上地町の医療廃棄物処理会社「メスキュード中央」と、同社社長、深間秀樹容疑者(四七)と東京都港区を、法人税法違反の罪で起訴した。

起訴状などによると、深間被告は平成二十三年七月期までの二年間にわたり、

架空の減価償却費を計上するなどの方法で所得約一億四千万円を隠し、法人税約四千二百万円を脱税したとしている。

深間被告は、昨春秋ごろから名古屋国税局の査察を受けていたが、脱税を否認。津地検は先月十五日に、深間被告を逮捕し、関係先数

力所を家宅搜索した。